

# みなみ 南アルプス市

(山梨県)

## 市内全域がユネスコエコパーク認定の桃源郷!! 企業誘致と市民協働の発信で創る活力あるまち

地域の魅力と優れた交通環境で図る  
産業振興・企業誘致

甲府盆地の西部に位置する南アルプス市は、平成15(2003)年4月1日、旧中巨摩郡八田村・白根町・芦安村・若草町・櫛形町・甲西町の4町2村の合併により、新市・南アルプス市としての歩みを開始した。

来年度(令和5/2023年度)の始まりとともに、市制施行20周年の節目の年度を迎える南アルプス市。発足した平成15年4月1日は、全国で計11の新・市町が同時に誕生した日でもあった。そのため今日では、平成11(1999)年度から開始された「平成の大合併」がいよいよ本格化した日の一つ、とも記憶されている。

さらにカタカナ交じりの市名は、昭和31(1956)年7月1日に誕生し、昭和47(1972)年5月15日の沖縄返還で本土復

帰した旧コザ市(昭和49/1974年に旧美里村との合併で現・沖縄市に改称)の事例を加えれば2例目。南アルプス市が誕生した段階では、全国唯一の事例として注目を集めたことも、記憶に新しい。

公募で決定された市名が象徴するように、南アルプス市の市域西部には、富士山に次ぐ日本第2位の高峰として知られる北岳(3193m)など、計14座(主峰は9座)の3000m級の峰々を擁する南アルプス(長野県・山梨県・静岡県)が縦断している。

南アルプスは全体的に山懐が深く、森林限界が高い。また、高峰が多い割に夏の雪溪が少なく、国内の高所山岳地帯でもかなり特徴的な自然環境が形成されている。そのため、貴重な高山植物(北岳山頂付近だけに見られる固有種キタダケソウ)やライチョウ(特別天然記念物)の生息など、生物相が多様かつ個性的だ。

このように、日本を代表する山岳地帯・南

かねまるかずもと  
金丸一元  
南アルプス市長



アルプスが市域西部に鎮座する南アルプス市だが、中心部から東側一帯の大部分は、富士川水系の一級河川・御勅使川(みだいがわ)が形成した国内最大級の扇状地(御勅使川扇状地)に占められている。そこではサクランボ・モモ・スモモ・ブドウなどの果樹園や、水田などからなる田園地帯が、ゆとりある市街地と共に展開し、穏やかな盆地風景が広がっている。



四季折々さまざまな顔を持つ南アルプスはユネスコエコパークとしての南アルプス市の象徴(厳冬の北岳)



南アルプス最高峰・北岳の山頂付近だけに見られる固有種タダケソウ

南アルプス市内全域が、南アルプスユネスコエコパーク(南アルプス山麓に接している山梨県・長野県・静岡県の10市町村が共同で登録/以下、ユネスコエコパーク)に認定されているのも、まさに「むべなるかな」と言うべきだろう。

丹精を込めて形成し、今に受け継がれている里山の緑豊かな環境(果樹園だけでなく、地域の高齢者を中心に、関係人口などがボランティア参加し、維持・保全している中野地区の棚田なども含む)の中に市街地が共生する市民生活の場は、さながら「桃源郷」のような趣ともされ、移住者や観光で訪れる国内外の人々の人気を集める要因の一つになっている。



暴れ川・御勅使川の治水の要、日本に3件しかない国史跡指定・河川堤防の一つ「御勅使川旧堤防(将根頭・石横出/しょうぎがしら・いしつみだし)」



特別天然記念物・ライチョウが息息するのは南アルプスをはじめ国内では5カ所だけ

面、周辺各方面と結ぶ陸路の高速交通網が、それを補って余りあるほどに充実していることも、南アルプス市の大きな特徴の一つだ。例えば、首都高速4号新宿線の新宿出入り口から中央自動車道経由で南アルプスIC(中部横断自動車道)までは約95分だ。長野自動車道や中部横断自動車道を使った場合、長野市から南アルプスICまでは約120分、静岡市からは約75分で着く。さらに、新宿駅から直通の特急あずさが停車する県都・甲府市の表玄関である甲府駅とは、乗用車で約30分(路線バスで



約40分)の至近距離で結ばれている。

南アルプス市の自然環境や住環境、交通環境などの優れた都市的資質は、観光・交流客や移住・定住希望者だけでなく、地方進出を考える企業の間でも高く評価されている。

例えば令和元(2019)年6月7日には、南アルプス市と山梨県、化粧品製造大手の株式会社コーセーとの三者間で《立地協定》が、また南アルプス市とコーセー、山梨県中央森林組合およびやまなし森づくりコミッションとの間では、《森林整備協定》が締結されている。これらの協定は、コーセーが南アルプス市に、同社にとって国内では昭和54(1979)年の群馬工場設置以来の新生産拠点となる《仮称・南アルプス工場》を建設することと併せて、周辺地域との連携によるSDGsへの積極的な取り組みの実践を目的に結ばれたものだ。コーセー・南アルプス工場の敷地は





入山者の安全登山、山岳観光の活性化を祈念し行われた南アルプス・開山祭(於・広河原山荘、今年6月25日)

11ha強にも及ぶ広大なものだ。これだけ大規模な製造工場が、南アルプス市に進出するの  
も、約20年ぶりのことだという。

「コーセー・南アルプス工場は当初、令和3(2021)年の稼働を目指していました。しかし、新型コロナウイルス禍の影響などで、来日外国人が激減したことなどもあり、外国人観光客に人気の化粧品需要を見込んで当初計画された工場の着工は、大幅に遅れました。それでもコーセー・南アルプス工場は、早ければ令和6(2024)年度中には竣工・稼働することが、三者間では改めて確認されています。

また今年5月19日には、コーセーの主要グループ会社であるコーセーコスメポート株式会社と南アルプス市との間で、包括的な自然環境保全に向けた取り組みをさらに推進する

ため、《ユネスコエコパーク×PEACEFUL GREEN PROJECT》パートナー協定を締結しました。工場の建設は致し方ない事情で大幅に遅れました。しかし、コーセーグループとの絆は、さらに強くなっておりますので、私たちは全く心配しておりません」

そう語るのは、金丸二元南アルプス市長だ。金丸市長は靴販売業など民間企業の経営を経て、平成16(2004)年の市議選で初当選した。そして市議会議員を3期の半ば(2期+2年)まで務めた後、平成27(2015)年4月の市長選に出馬し、初当選。今年で2期8年目を迎えている。

### 次々立ち上がる大規模プロジェクト による活性化への期待

南アルプス市への企業進出の大型案件はさらに続く。追い風となったのは、中部横断自動車道(総延長約132km)建設の進捗だ。令和3年8月29日、南アルプス沿いの長野県・山梨県・静岡県がつながる中部横断自動車道(小諸市〜南アルプス市など山梨県経由〜静岡県静岡市)のうち、山梨県・静岡県ルートが、構想策定から35年目に、ついに全通したのだ。既に部分開通していた長野県・山梨県ルートに加え、今回新たに開通した山梨県・静岡県ルートは、沿線の人々にとって長年の夢だった。



地域の高齢者を中心に維持されている棚田(中野地区)は南アルプス市の典型的な里山風景

また、南アルプス市側から見ると、中部横断自動車道の山梨県・静岡県ルートは、山あいのまち・南アルプス市が南アルプスICから新清水IC経由で、静岡県唯一の国際拠点港湾である清水港、つまり海側と直結するようになったことを意味する。

もともと優れた交通拠点性を持っていた南アルプス市だが、これを契機に物流拠点としての優位性はさらに高まった。同時にその要である南アルプスICの重要度は、より一層幅広く、多様性を増したことになる。

「本市は今年の7月4日に、《南アルプスIC新産業拠点整備事業》(以下、新産業拠点整



# 南アルプス市 市 政 ル ポ

(山梨県)



新たなスポーツアクティビティの実証実験を兼ねて10月16日に開催された《サイクルアドベンチャー・フェスin南アルプス》

備事業）に関して、コストコホールセールジャパン株式会社および株式会社ヒカレヤマナシと協定締結式を執り行いました。この協定は、南アルプスICに隣接する広大な敷地（約12ha）に、『人々が集い、地域と繋がる集客交流拠点』をコンセプトとする、新たな産業交流施設を形成するための事業計画の推進を目的としています。

同事業地に進出してくださいる企業について、本市では昨年10月から公募方式による誘致を進めてまいりましたが、幸いにも山梨県で初めての店となる、コストコの誘致に成功いたしました。

南アルプス市としては、これを契機に、地域の魅力や良好な交通環境を最大限に生かした、南アルプス市ならではの集客（観光）交流拠点を創出し、活力ある新たなまちの創造への第一歩にしたいと考えております」（金丸市長）

集客交流拠点の一角を担う株式会社ヒカレヤマナシは、新産業拠点整備事業の事業用地開発・運営のため、今年5月23日、いずれも地域活性化への貢献に積極的な県内企業11社が参画し、新たに設立された特別目的会社（SPC）だ。「山と暮らす街をコンセプトにし

た地域交流エリアを開発・運営する会社」をモットーにするヒカレヤマナシを中心に、新産業拠点整備において、今後予定されている具体的な事業は、次のように説明されている。

「農産物直売所とレストランが融合したグロサラント（※注1 食料雑貨・日用品などのグロサリーと、レストランを合わせた造語）や、南アルプスの体験と観光のポータル（拠点）となるアウトドアセンターを中心に、地域の農業や食とつながるマーケット、シェアオフィスなど、地域の魅力を発信する『地域交流施設』（の建設）を予定しています。（以上『南アルプス市公式サイト』より）」

つまり、南アルプスICの隣接地に形成さ



研修施設やキャンプサイトが森や湖の間に点在する「エコパ伊奈ヶ湖」は南アルプスエコパークを身近に楽しめる場として人気

れる新産業拠点においては、中部横断自動車道の工事の進捗でスケールアップした、南アルプスICの有する交通・交流拠点性の基盤の上に、南アルプス市地域の魅力的な《農》と《食》、ユネスコエコパークの環境を背景とする各種のマウンテンスポーツ機能や地域交流機能、起業を目指す人々の育成機能などが、複合的に組み合わされる。

そこにコストコという、集客機能に非常に優れた巨大なけん引施設が加わることににより、前述の多彩な目的が集約されるとともに、全体に底上げされるようなイメージの《集客交流拠点ゾーン》の形成が目指される。

「新産業拠点整備事業の運営主体はヒカレヤマナシですが、さらにその運営を、IOT



南アルプスユネスコエコパークの入り口として機能する「エコパーク管理事務所」（芦安地区）



南アルプス市(芦安地区)は天然記念物・甲斐犬の発祥の地

などの最先端技術やICTを活用して支援を行う企業の代表として、ソフトバンク株式会社もサポートメンバーに加わってくださることが決定しています。本格的な事業の推進はまだこれからですが、非常に心強く思っております」(金丸市長)

また、コーセーの進出と同様、新産業拠点整備事業が、南アルプス市の産業振興だけでなく、山梨県全体の産業振興にも結び付くことが期待される案件であることは、前述の協定締結式に際して、南アルプス市議会の飯野久議長と共に、長崎幸太郎山梨県知事が立ち会い人として出席していることなどからも、よく分かるだろう。

また、取材(令和4年8月24日)から1カ月半後の10月4日、東京ガス山梨株式会社が南アルプス市に立地する半導体の製造工場向けに、都市ガスを供給するパイプラインを完成させたとのニュースが入ってきた。

南アルプス市への都市ガスの供給は、東京ガス山梨にとつて初めての事業だが、今後は南アルプス市内の他の企業向けにも、随時、都市ガスを供給していく予定とニュースリリースされている。

都市ガスはプロパンガスに比べ、燃焼時の

二酸化炭素排出量が少ないことから、脱炭素社会を目指すSDGsの理念にもかなっている。加えて、東京ガス山梨が今回、南アルプス市への都市ガス供給に踏み切った背景には、南アルプスIC周辺エリアを中心に、SDGsへの取り組みに積極的な企業による南アルプス市への進出が、今後さらに活発化するとのマーケティング予測があるからとされる。

南アルプス市ではこうした企業進出のさらなる増加に備えるため、新産業拠点整備事業のみならず、既存の工業団地についても適宜、拡張工事を行っている。例えば、下今諏訪工業団地と御勅使南工業団地は、来年3月末には新たな造成が完了する予定だ。

新産業拠点整備事業についても、コーセー・南アルプス工場が稼働する予定の令和6年度中には、やはりコストコが進出する予定であり、それらの事業が進捗するにつれ、新産業拠点の全体像が明確に見えてくるだろう。

## 全てに目配りの利いた活性化施策で 挑む人口減少の抑制

こうした産業基盤の再編とも言えるべき、大型の事業計画が次々と進行していく中、南アルプス市では人口減少の抑制をはじめ、持続可能なまちづくりへの取り組みも着々と進行中だ。



短期滞在、日帰り利用、農地付き賃貸住宅としても使える「南アルプスクラインガルテン」は、移住・定住の有力なお試しの場

「新産業拠点整備事業や企業誘致の推進事業以外で、私が現在、特に重点的に力を傾注している施策・事業の第一は、ふるさと納税の推進および移住・定住の推進です。サクランボ・モモ・スモモ・ブドウをはじめとする本市の特産品や、まちづくりへの取り組みを幅広く周知するためにも、ふるさと納税を通じて応援していただくことは効果的です。その専門部署として、昨年春には『ふるさと振興室』を設置いたしました。

おかげさまで令和3年度の最終的なふるさと納税額は16億3000万円を超え、令和2(2020)年度の3割増しとなりました。

また、本年度はふるさと納税に加え、移住・定住を促進するべく、ふるさと振興室をふる



# 南アルプス市 市 政 ル ポ

(山梨県)



数あるふるさと納税返礼品の中でもトップクラスの支持を集めるシャインマスカット



モモと並ぶ桃源郷・南アルプス市のシンボリック存在のモモ(貴陽)

さと振興課へと改編し、移住・定住の専門担当者も置くようにいたしました(金丸市長)

移住・定住に関しては、若者世帯定住支援奨励金事業が特に好評で、令和3年度は過去最高の161件の応募があったという。

南アルプス市の発足時に7万人強だった人口は、合併後に少しずつ増えたものの、平成25(2013)年1月1日の7万3489人(住民基本台帳)をピークに、緩やかな減少傾向を見せ始め、今年10月1日現在では7万1597人(同)となっている。

総量では緩やかな人口減少が続いていることになる。しかし、南アルプス市では近年、人口の自然増こそ伸び悩んでいる半面、転入による働き盛り世代・子育て世代の社会増は伸び続けており、この現象は明らかに、移住・定住人口の伸びに後押しされている。

発足したばかりのふるさと振興室を、ふるさと振興課に格上げした本年度以降の、人口の推移が、さらに注目されるどころだ。

そして新産業拠点整備事業、企業誘致、移住・定住人口の増加推進と共に、金丸市長が現在最も力を傾注している事業の一つは「市民参加によるシティプロモーション」ならびに「子育て支援のさらなる充実」だ。

「人口減少の抑制およびそのための移住・定住の促進、子育て世代・働き盛り世代の誘致に向けた南アルプス市のシティプロモーション事業は、令和3年に《南アルプス市シティプロモーション戦略》を策定したことから本格化しました。特に現在は、市民参加によるシティプロモーションの推進に力を入れています。

具体的には、公募による市民参加型シティプロモーション、InstagramなどのSNSによる市民の情報発信を支援する事業などを、積極的に進めております。

それから、子育て支援の拡充については、市長就任時の公約でもある保育料無償化を昨年度に実現したほか、民間保育所への支援、一時預かり事業の利用者負担金無償化なども実現。さらに『子ども家庭相談課』を新設し、虐待やヤングケアラー問題など、子どもを巡る多様な問題・



パイプオルガンがシンボルのクラシックコンサートホールとして知られる「南アルプス市桃源文化会館」

課題への対応窓口を一本化しました」(金丸市長)

このように南アルプス市は、産業振興、企業誘致、市民参加によるシティプロモーション、移住・定住の促進、子育て支援など、全てに目配りの利いたまちづくり、地域振興を同時進行している。

令和2年3月発行の人口ビジョン改訂版では、令和7(2025)年の人口目標を7万人台維持に置いているが、前年(令和6年)には前述の通り、コーセー・南アルプス工場と新産業拠点へのコストコ出店が予定されている。人口7万人台の維持は、その活性化の効果を考慮すれば、決して不可能な目標ではないだろう。

(取材・文＝遠藤隆／取材日＝令和4年8月24日)